

令和7年度 学校関係者評価書

学校名	北海道静内高等学校
-----	-----------

組織名	学校評議員会
-----	--------

1 本年度の重点目標

- 1 基本的な生活習慣を確立し、思いやりのある心豊かな人格の育成を図る。
- 2 自らを律し、学習や部活動等に意欲的に取り組み、目標に向かって努力を惜しまない態度を育む。
- 3 地域との連携に努め、生徒一人一人を大切にしたいきめ細かな指導を継続し、次代を担う有為な人材を育成する。

重点目標の適切さ 地域との双方向の連携を重視する目標は、非常に意義深い。
生徒の主体性を重んじる方針は、新しい教育の潮流に合致していると思う。

評価者
・学校評議員5名 (うち保護者1名)

2 自己評価結果

評価項目	指標・結果等	自己評価	今後の改善の方策	自己評価の結果の内容の適切さ	今後の改善の方策の適切さ
学習指導	学習目標の明確化及び家庭学習の定着を図り、個に応じた指導を充実させる。 【指標】 家庭学習時間の平均値が普通クラス 60分以上 特進クラス120分以上 【結果】12月2日実施 1年 2年次 3年次 普通クラス 60分以上 32.1%(55.7) 30.0%(35.0) 20.4%(32.3) 特進クラス120分以上 27.0%(23.5) 42.9%(30.9)	B	全体的に減少傾向。3年次の特進クラスの120分以上の学習時間者数は微少している。年内受験の増加の影響と考えられる。 個別最適な学習活動ができるように工夫するとともに、家庭学習の意義に係わる啓発活動を行う。	B A B B B	B A B B B
評価者の意見等	全体的に学習時間をもう少し増加させたい。 減少傾向への対策を具体化し、次年度の数値向上に期待する。				
生徒指導	本校の『いじめ防止基本方針』のもと、家庭、地域、関係機関等の協力を得ながら、教育相談的指導を充実させ、「いじめ」の未然防止、早期発見・早期対応に取り組む。 【指標】 いじめアンケートにおいて、「いじめはどんな理由があっても絶対許されない」と回答する生徒を100%とするとともに、あわせて「いじめ0」とする。 【結果】 1年次 87.0%(94.7)、2年次93.3%(93.2)、3年次91.9%(83.4) 全体90.7%(92.0) ※昨年度より減少 いじめ認知件数25件(内23件解消済 2件経過観察)	A	「いじめ0」から「いじめ見逃し0」という観点でいじめ調査をしているため、認知件数は増加している。認知件数が増えることは、見逃し0へつながるため、よい傾向であること認識をもっている。昨年の倍以上の認知件数であることから、丁寧に生徒の学校生活を観察しているといえる。 引き続き「いじめ防止の取組」について継続的にちょっとした兆候やサインを見逃さない姿勢で指導を継続する。	A A B A A	A A B A A
評価者の意見等	「見逃しゼロ」を掲げ、昨年比倍増の事案を把握した学校の姿勢は高く評価できる。 3年次生の意識が前年より大幅に向上しており、継続的な指導の成果が表れていると感じる。 SNS上のトラブルやいじめに対し、学校としてどのような対応をしているのか指導方針について知りたい。				
進路指導	各年次に応じて、生徒一人一人に視点を当てたいきめ細かな進路指導を行う。 【指標】 3年次生の進路決定率100% 【結果】(2月19日現在) 就職100%(100%)、進学率(70.8) 全体74.5%(83.7) 国公立受験者多数	A	年次枠を越えた情報交換の機会を充実させるとともに、活用しやすいデータ・資料の提供に努める。	A A B A A	A A B A B
評価者の意見等	今後も生徒一人ひとりの特性に寄り添った、きめ細やかな進路指導の継続をお願いしたい。 進学率に関しては、国公立大学の結果を待つ段階かと思うが、現時点での専修学校や私立大学等の暫定値も併せて伺いたい。 就職内定率100%の達成は極めて優れた成果であり、高く評価している。				

【評価基準】

※自己評価の結果の内容の適切さ A:十分適切な取組である B:概ね適切な取組である C:適切とはあまり言えない取組である D:適切とは言えない取組である
※今後の改善の方策の適切さ A:十分な効果が期待できる B:ほぼ十分な効果が期待できる C:効果があまり期待できない D:全く効果は期待できず、改善を要する